

## 7月例会案内

栗原 せん三

- 1、大石家の古文書を読解しよう。
  - (1)、大石定久古文書「永林寺境内法域を定むる書」
  - (2)、大石貞勝古文書「当山開基由緒記」
- 2、レポーター 石原 哲哉 (生涯教育インストラクター・古文書)
- 3、日時 2023年 7月2日(日曜日)、2時から4時半
- 4、会場、台町市民センター

Q何故大石家の勉強をするのですか。

A 大石家とは、関東管領・武蔵守護を歴任した山内上杉氏の有力宿老家の出身で、戦国期には惣領家にあたる遠江守家が、武蔵守護代に就くとともに、多西郡由井城を本拠に領国を形成し、武蔵西郡における有力国家として展開した。

しかし、戦国期半ばに小田原北条氏に従属し、さらに、同氏一門の氏照によって継承されたことによって、事実上、国衆としての大石氏の歴史は終息を見る。

「武蔵大石氏」 黒田基樹 著 岩田書院 P1はしがきより

氏照が、大石氏の養子に入り、当時の大石氏の様子の分かる古文書があり、古文書を読むと当時の定久開基の永林寺の様子がよく分かるからです。

